

## 浮遊ウイルス A 除去評価試験※

※浮遊ウイルスAは社内の識別記号であり特定のウイルス・菌名あらわすものではありません。

### 目的

空気消臭除菌装置によって25m<sup>3</sup>空間の浮遊ウイルスに対する除去効果を評価する。

### 試験方法

- ①試験機関：一般財団法人北里環境科学センター
- ②識別番号：北生発 2019\_0412 号（報告書番号）
- ③試験種類：集塵
- ④対象分類：ウイルス
- ⑤試験対象：大腸菌ファージ
- ⑥試験品：空気消臭除菌装置：MC-S1（ブルーデオ）
- ⑦試験条件：光源（ブルーデオに内蔵）風量（運転モード”強” 0.4m<sup>3</sup>/min）  
：チャンバー容積（25 m<sup>3</sup> 約 6 畳）  
：作用時間（240分、480分、720分）
- ⑧試験方法：25m<sup>3</sup>試験空間内（6 畳相当）でブルーデオを強モードで稼働し経過時間ごとに浮遊ウイルスを測定  
JEM1467 家庭用空気清浄機 附属書D「浮遊ウイルスに対する除去性能評価試験」を参考

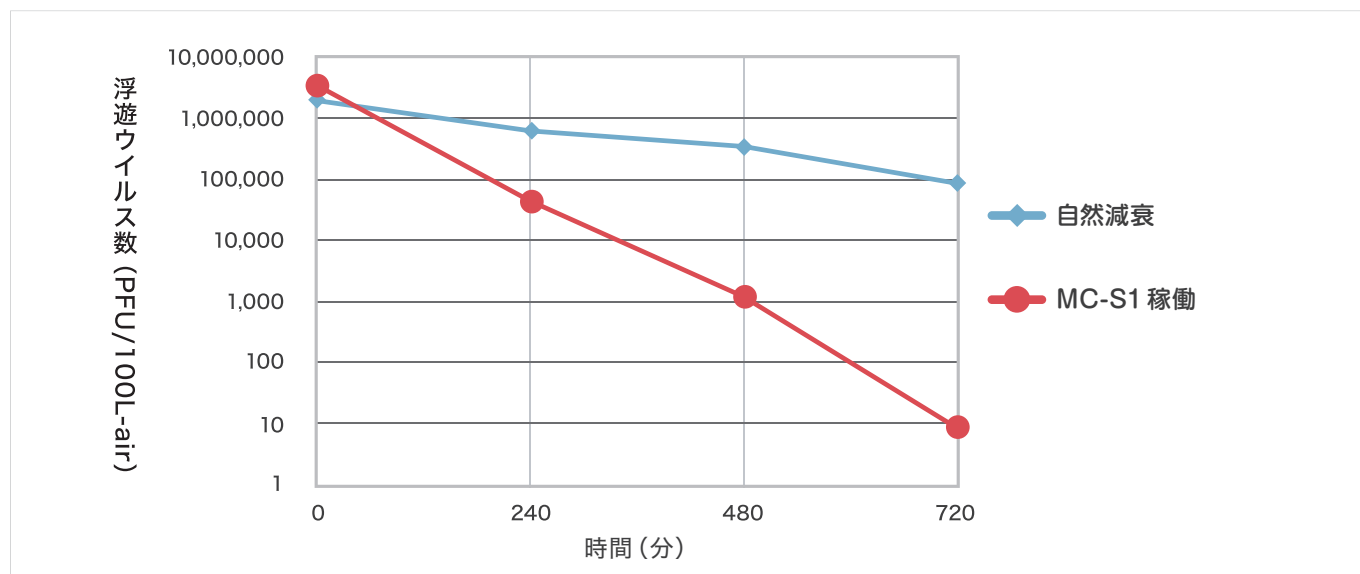
### 試験結果

MC-S1 による経過時間ごとの浮遊ウイルス数を示した。

経過時間ごとの浮遊ウイルス数

単位：PFU/100L-air

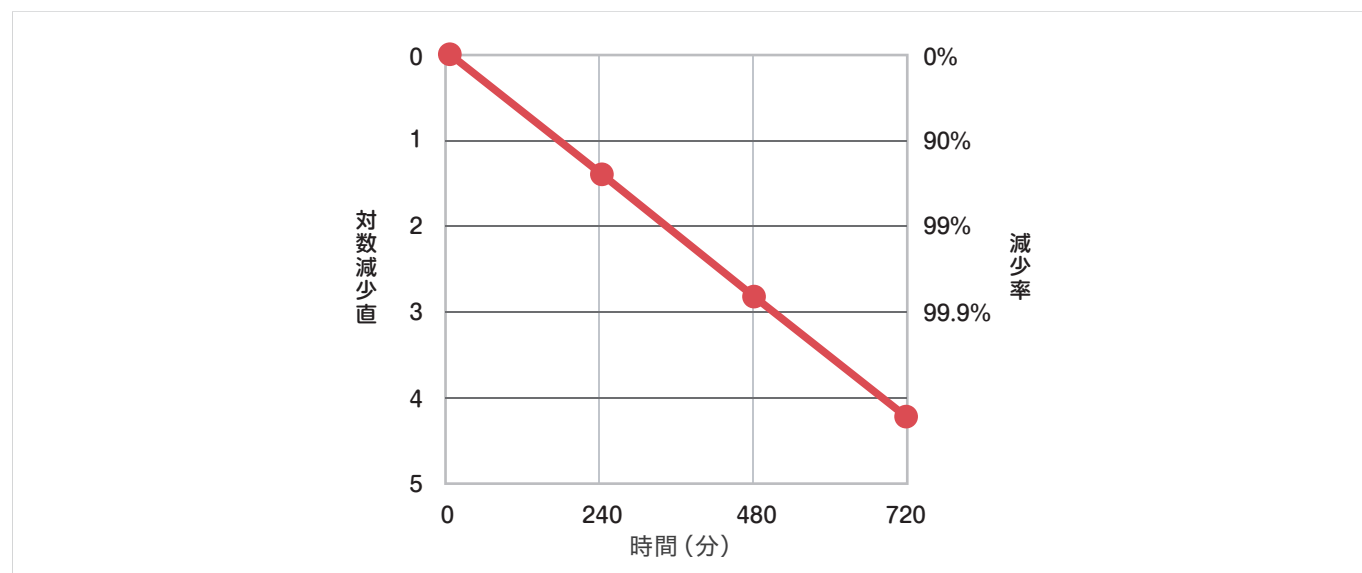
	0分	240分	480分	720分
自然減衰	2,000,000	620,000	340,000	90,000
MC-S1 稼働	3,400,000	43,000	1,200	8



経過時間ごとの自然減衰とMC-S1の浮遊ウイルス数から計算した対数減少値と減少率を示した。

経過時間ごとの浮遊ウイルス数の対数減少値と減少率（％）

	0分	240分	480分	720分
対数減少値 (減少率)	0.00 (0%)	1.41 (96%)	2.82 (99.8%)	4.24 (>99.99%)



本試験によって得られた試験品による対数減少値（減少率）は720分で4.24（>99.99%）となった。対数減少値（減少率）が2.0（99%）以上となり浮遊ウイルス数に対する除去性能があると認められた。また、対数減少値（減少率）が2.0（99%）となる時間は、340分であった。

注）研究試験データであり、実使用環境での効果を示すものではありません。

## 試験風景

大型チャンバー内の1壁面の中央部付近に空気消臭除菌装置を設置し、チャンバー内の中央部から浮遊するウイルスをサンプリング

